日本の資源と産業

名前

問1　日本の農業において、農業従事者の高齢化が進むことで、体力的な負担の増大や後継者不足が深刻な問題となっています。これらの要因が直接的な原因となり、以前は作物が作られていたものの、現在は長期間にわたって作付けが行われていない農地が全国的に拡大しています。このような農地のことを何と呼びますか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 干拓地
2. 耕作放棄地
3. 休耕田
4. 遊休知

問2　千葉県に位置し、日本有数の水揚げ量を誇る銚子漁港の統計的な特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 愛知県公立入試 類似）

1. 海外からの輸入量が増加したことに伴い、国内消費向けの出荷量も過去最高となっている。
2. 1960年代から現在に至るまで、右肩上がりで水揚げ量が増加し続けている。
3. 1985年に約78万トンの水揚げ量を記録してピークとなり、その後は減少傾向にある。
4. 遠洋漁業が衰退した1975年頃から、それを補うように水揚げ量が過去最高を更新した。

問3　農産物の産地を比較した説明として正しいものを、次のうちから選びなさい。なお、データ上の特徴として、Aは北海道が収穫量の大部分を占め長崎県が上位に入り、Bは鹿児島県と茨城県が収穫量の上位を占めているものとします。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. Aはさつまいも、Bはじゃがいもである。
2. Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。
3. Aはてんさい、Bは茶である。
4. Aは乳牛の飼育頭数、Bは肉牛の飼育頭数である。

問4　日本の農林水産業のうち、水産業における供給と消費の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。1985年から2010年にかけての推移において、国内生産量は一貫して減少しており、輸入量は1995年を境に増加から減少へ転じている状況を踏まえて答えなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）

1. 国内生産量が回復したことで、海外からの輸入に頼る必要がなくなり、輸入量が減少している。
2. 国内生産量は減少し続けているが、輸入量も減少に転じたため、国内の魚介類消費は減少傾向にある。
3. 国内生産量と輸入量の双方が1985年から一貫して増加しており、国内消費は拡大している。
4. 輸入量が年々増加しているため、国内生産量が減少していても国内の魚介類消費は増加している。

問5　群馬県の嬬恋村では、7月から10月にかけてキャベツの出荷が集中しています。千葉県銚子市などの平地と比べて夏の気温が大幅に低いという気候条件を活かしたこの取り組みについて、正しい説明を選びなさい。（2020年 岐阜県公立入試 類似）

1. 大消費地に近い利点を活かし、鮮度を保ったまま短時間で市場へ輸送している。
2. 冬の温暖な気候を利用して、他の地域よりも収穫時期を大幅に早めている。
3. 標高が高い地形による涼しさを利用し、キャベツが熱に弱い特性を補っている。
4. ビニールハウスなどの施設を用いて人工的に温度を上げ、成長を促進させている。

問6　日本の大手製粉企業の工場分布を調べると、博多、神戸、名古屋、京浜、千葉といった主要な港湾都市に集中していることがわかります。このように製粉工場が特定の地域に立地する理由について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2021年 長野県公立入試 類似）

1. 製粉には大量の工業用水が必要であり、河川の最下流にあたる臨海部が適しているから
2. 小麦は鮮度の低下が早いため、海外から到着した原料をただちに加工する必要があるから
3. 原料の多くを輸入に頼っているため、船による大量輸送の利便性を重視しているから
4. 原料よりも製品の方が重くなるため、最終的な消費者に近い港湾都市が選ばれるから

問7　複数の自治体が協力してレンタサイクル事業を運営したり、自治体の枠を超えた観光モデルコースを設定したりする取り組みが見られます。このように、道路や自転車道などのインフラを共有し、複数の市区町村が協力して地域の振興に取り組む体制を何と呼びますか。（2023年 石川県公立入試 類似）

1. 高度経済成長
2. 広域連携
3. 関税障壁
4. 地方交付税交付金

問8　高知県で盛んななすの促成栽培において、12月から5月にかけての市場の「出荷量」と「価格」の関係、および農家の「収入」への影響について正しく説明しているものはどれですか。（2020年 茨城県公立入試 類似）

1. 他県産の出荷量が減少して市場価格が高くなるため、その時期に出荷することで農家の収入が増える。
2. 自県からの出荷量を抑えることで市場価格を高く維持し、少ない販売数で農家の収入を安定させる。
3. 他県産の出荷量が急増して市場価格が安くなるため、薄利多売によって農家の収入を維持する。
4. 出荷量に関わらず市場価格が一定になるよう調整されているため、農家の収入は出荷時期に左右されない。

問9　日本の輸出において、製品の性質によって輸送手段が使い分けられています。自動車のように重量がある製品と、半導体などの電子部品のように軽量で高価な製品の輸送について、その組み合わせと理由を説明したものとして適切なものはどれですか。（2019年 愛媛県公立入試 類似）

1. 自動車は故障を防ぐために航空輸送を利用し、半導体は大量に運ぶために海上輸送を利用する。
2. 自動車は重量があるため航空輸送には適さず、半導体は熱に弱いため海上輸送には適さない。
3. 自動車は輸出先が遠隔地であるため海上輸送を利用し、半導体は近隣諸国への輸出が多いため航空輸送を利用する。
4. 自動車は輸送コストを抑えるために海上輸送を利用し、半導体は速達性を重視して航空輸送を利用する。

問10　天竜川のような水量豊富な河川において、歴史的に堤防の建設とあわせて寺谷用水などの利水施設が整備されてきた主な目的は何ですか。地域の産業の特性を踏まえて説明したものを選びなさい。（2025年 兵庫県公立入試 類似）

1. 都市部の人口増加に対応するため、農業用水をすべて飲料水に転換し管理を容易にするため
2. 水力発電の効率を高めるために河川の流速を一定に保ち、周辺の工業地帯に電力を供給するため
3. 洪水を防ぐための治水対策と、農地に安定して水を供給するための利水対策を両立させるため
4. 大規模な堤防によって水深を深く保ち、大型船による農産物の輸出を円滑にするため

問11　日本は原油輸入の大部分をサウジアラビアやアラブ首長国連邦などの特定の地域に依存していますが、このような供給体制が日本経済に与える影響や課題について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2025年 神奈川県公立入試 類似）

1. 産油国による原油価格の引き上げや地域の情勢不安が、日本の物価や企業活動に大きな影響を及ぼすリスクがある。
2. 輸入先が特定の地域に集中していることで、輸送ルートが限定されるため、常に安価で安定した供給が保証されている。
3. 西アジア以外の地域からの輸入割合がすでに5割を超えているため、特定の地域で紛争が起きても日本経済への影響は限定的である。
4. 原油の輸入価格は日本政府が決定権を持っているため、産油国の経済状況が日本のエネルギー価格に影響することはない。

問12　北九州市のエコタウン事業において、回収された家電製品や自動車を再び新しい材料や製品として活用する「リサイクル」を効率的に行うために、各施設で共通して実施されている極めて重要な工程はどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

1. 故障した製品を修理せず、そのままの形で海外へ輸出する工程
2. 不燃ごみとして処理し、そのまま沿岸部に埋め立てる工程
3. すべての廃棄物を高温で焼却し、灰だけを回収する工程
4. 金属やプラスチックなどを素材ごとに細かく分別する工程

答え合わせ・解説

問1	答え 2 耕作放棄地	日本の農業が抱える大きな課題の一つに、働く人の高齢化があります。平均年齢が上昇し、体力的な理由で農作業が続けられなくなったり、子供などの後継者がいないために農地を引き継げなかったりすることで、手入れがされなくなった農地が増加しています。このような状況は、単に生産量が減るだけでなく、害虫の発生や防災機能の低下といった地域全体の課題にもつながっています。
問2	答え 3 1985年に約78万トンの水揚げ量を記録してピークとなり、その後は減少傾向にある。	銚子漁港は暖流と寒流が交わる好漁場に近く、日本トップクラスの水揚げ量を維持してきましたが、その推移を見ると1985年の約78.4万トンを境に減少に転じています。これは、マイワシなどの資源量の変動や、漁業従事者の減少、さらには安価な輸入魚との競争といった日本漁業全体が抱える課題を反映しています。
問3	答え 2 Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。	じゃがいもとさつまいもは、どちらも日本を代表するいも類ですが、栽培に適した環境が異なります。じゃがいもは冷涼な気候を好むため北海道が主産地となりますが、さつまいもは温暖な気候を好み、火山灰地でも育ちやすいため、鹿児島県のシラス台地や茨城県の台地での栽培が盛んです。この産地の違いは、中学地理における農産物の判別のポイントとなります。
問4	答え 2 国内生産量は減少し続けているが、輸入量も減少に転じたため、国内の魚介類消費は減少傾向にある。	1985年当時は1000万トンを超えていた国内生産量は、2010年には半分以下の水準まで落ち込んでいます。供給の不足を補っていた輸入量も、1995年のピーク以降は減少しており、国内生産と輸入の合計である国内消費量は年々少なくなっています。これは、日本人の食生活の変化に加え、新興国での水産物需要増による国際的な買い付け競争の激化など、供給と消費の両面で大きな変化が起きていることを示しています。
問5	答え 3 標高が高い地形による涼しさを利用し、キャベツが熱に弱い特性を補っている。	嬬恋村のような高冷地では、標高が高いことで夏でも気温が低く保たれます。キャベツは高温に弱い性質を持っているため、夏の気温が高い平地ではこの時期の栽培が困難ですが、高冷地ではその涼しい気候が栽培に適しています。これにより、平地の品不足が起きる時期に市場へ供給することが可能になります。
問6	答え 3 原料の多くを輸入に頼っているため、船による大量輸送の利便性を重視しているから	日本の小麦自給率は約1割程度と非常に低く、原料の大部分をアメリカやカナダ、オーストラリアなどから輸入しています。大量の原料を安く運ぶには船が最も適しており、港に隣接した臨海部に工場を置くことで、港から工場までの陸上輸送の距離と費用を最小限に抑えることができます。
問7	答え 2 広域連携	市町村などの境界を越えて、共通の目的のために複数の自治体が協力し合うことを広域連携と呼びます。地理的なつながりを持つ自治体同士が、自転車道のような共通のインフラを活用することで、一自治体だけでは達成できない観光客の誘致やサービスの提供が可能になります。
問8	答え 1 他県産の出荷量が減少して市場価格が高くなるため、その時期に出荷することで農家の収入が増える。	野菜の価格は、市場に出回る「出荷量」によって大きく変動します。なすの場合、冬から春は多くの地域で栽培が困難になり出荷量が減るため、価格が年間で最も高い水準（1kgあたり400円～550円程度）まで上昇します。このタイミングで供給を行うことで、1回の取引あたりの単価が上がり、農家は効率的に収入を得ることができます。このように市場の動向を見て出荷時期を調整することは、地理的な条件を活かした重要な農業戦略です。
問9	答え 4 自動車は輸送コストを抑えるために海上輸送を利用し、半導体は速達性を重視して航空輸送を利用する。	自動車などの重量や容積が大きい製品は、輸送コストを低く抑えるために、大量輸送が可能な海上輸送が選ばれます。一方、半導体などの電子部品は、軽量かつ高価（高付加価値）であり、製品の寿命が短く迅速な輸送が求められるため、運賃が高くてもスピードの速い航空輸送が選ばれる傾向にあります。このように、製品の重量、価格、緊急性によって輸送手段を使い分けることは貿易の基本原則です。
問10	答え 3 洪水を防ぐための治水対策と、農地に安定して水を供給するための利水対策を両立させるため	天竜川などの大規模な河川では、古くから氾濫による水害を防ぐための堤防建設（治水）と、農業生産を支えるために必要な水を確保する取水施設や水路の整備（利水）が一体となって進められてきました。これにより、自然災害を抑えつつ、広大な耕作地への安定的な水供給が可能となり、農業生産の安定に大きく寄与しています。
問11	答え 1 産油国による原油価格の引き上げや地域の情勢不安が、日本の物価や企業活動に大きな影響を及ぼすリスクがある。	特定の地域にエネルギー資源を過度に依存することは、地政学的リスクを伴います。西アジアでの紛争や、産油国による供給量の制限、価格の引き上げが行われると、日本国内のガソリン価格や電気料金、製造コストなどが連鎖的に上昇し、国民生活や経済全体に大きな打撃を与えることになります。
問12	答え 4 金属やプラスチックなどを素材ごとに細かく分別する工程	リサイクルを成功させるためには、回収した製品から鉄、銅、アルミ、プラスチックなどの純度の高い素材を取り出す必要があります。そのため、エコタウン内の施設では、手作業や機械を用いて素材ごとに分別する工程を徹底しており、これが新たな製品の原料として再利用（資源循環）するための鍵となっています。単なる埋め立てや輸出では資源の有効活用にはなりません。